

令和8年度 中小企業診断士第1次試験

■過去3年間の平均点の推移

	R06	R07	R08
経済学・経済政策	57.9	52.8	55.7
財務・会計	57.8	52.7	61.3
企業経営理論	67.9	57.0	64.1
運営管理	60.6	55.2	59.4
経営法務	54.4	57.2	56.0
経営情報システム	51.8	50.6	59.6
中小企業経営・政策	52.6	66.6	59.8
	58.0	56.2	60.1

■令和8年度の各科目の状況（全体）

	平均点	標準偏差
経済学・経済政策	55.7点	9.1
財務・会計	61.3点	12.1
企業経営理論	64.1点	11.2
運営管理	59.4点	9.6
経営法務	56.0点	9.6
経営情報システム	59.6点	14.9
中小企業経営・政策	59.8点	11.7

	60点以上の割合	40点未満の割合
経済学・経済政策	42.9%	2.4%
財務・会計	71.6%	2.2%
企業経営理論	69.4%	5.6%
運営管理	55.9%	2.3%
経営法務	46.5%	2.3%
経営情報システム	57.0%	9.5%
中小企業経営・政策	52.2%	6.5%

	最高点	最低点
経済学・経済政策	72点	36点
財務・会計	88点	32点
企業経営理論	93点	28点
運営管理	77点	35点
経営法務	80点	36点
経営情報システム	88点	28点
中小企業経営・政策	80点	25点

■令和8年度の各科目の状況（合格基準をクリアされた方の状況）

	平均点	最高点	最低点
経済学・経済政策	59.8点	72点	40点
財務・会計	65.4点	88点	44点
企業経営理論	69.5点	93点	57点
運営管理	64.3点	77点	49点
経営法務	59.8点	72点	44点
経営情報システム	68.0点	88点	52点
中小企業経営・政策	64.7点	80点	49点

注）当校で実施した採点サービスのデータに基づいたものであり、本試験全体のものとは異なりますので、予めご了承ください。

《コメント》

当校の採点サービスにご参加くださりまして、誠にありがとうございました。8月18日現在の受験生の皆様のデータを集計致しました。（有効回答者のみのデータ）

単純に比較することはできませんが、令和8年度の本試験は例年並みの難易度であったと考えます。

①平均点が低下した科目

「経営法務」「中小企業経営・中小企業政策」

②平均点が上昇した科目

「経済学・経済政策」「財務・会計」「企業経営理論」「運営管理」「経営情報システム」

したがって、平均点の特に高い科目（「財務・会計」「企業経営理論」等）で、平均点の低い科目（「経済学・経済政策」「経営法務」「中小企業経営・中小企業政策」）の不足分をしっかりとカバーできたかで合否が決まると考えます。

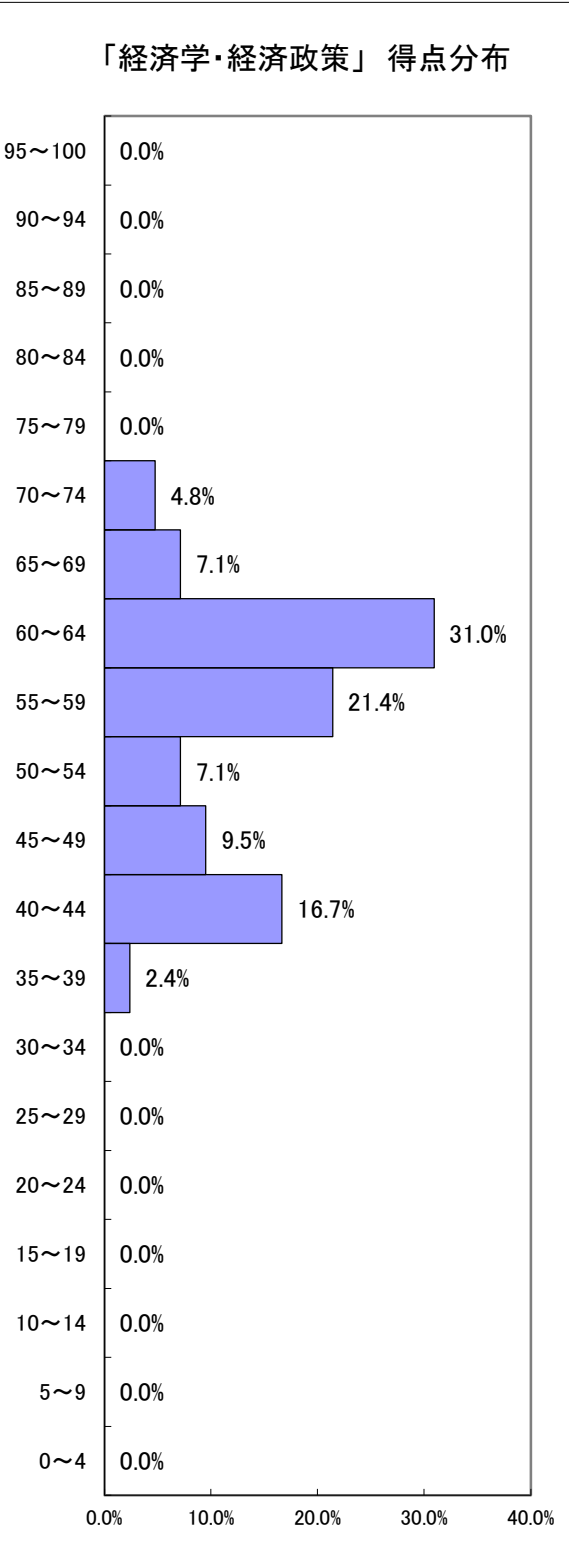
ご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました。当校職員一同、皆様の試験合格と今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

A

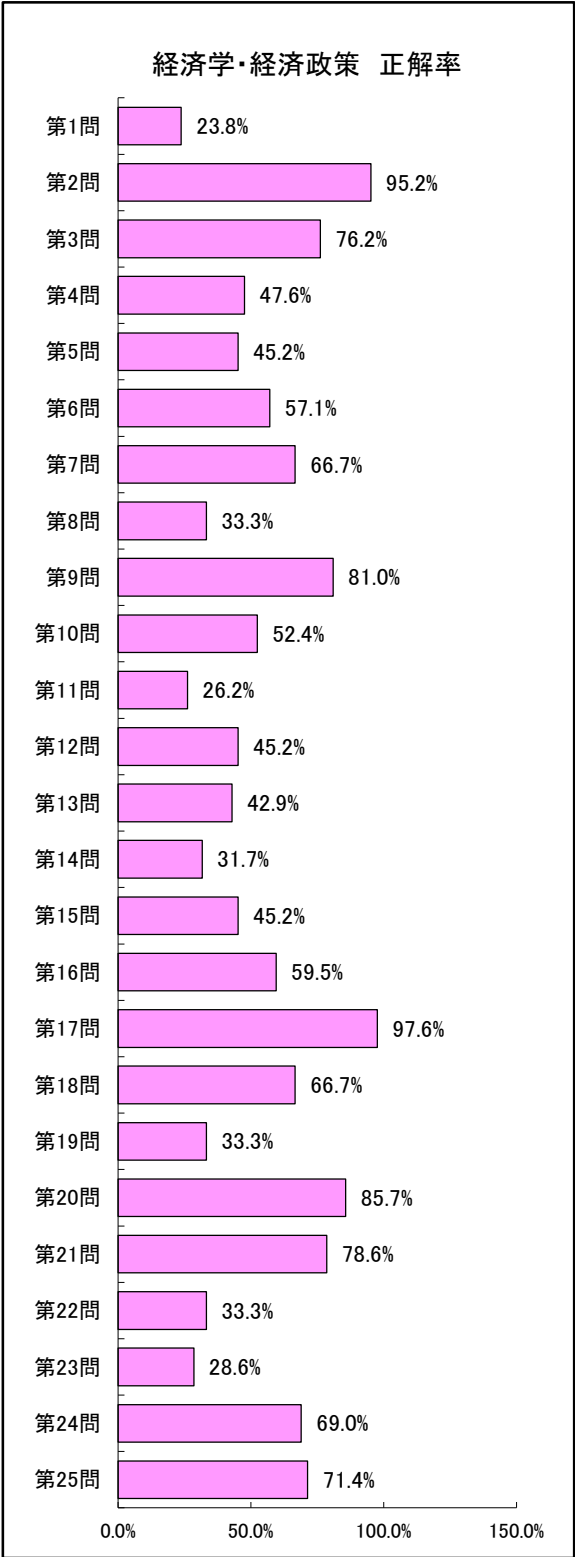
経済学・経済政策

平均点：55.7点、標準偏差：9.1

■ 得点分布



■ 設問別正解率

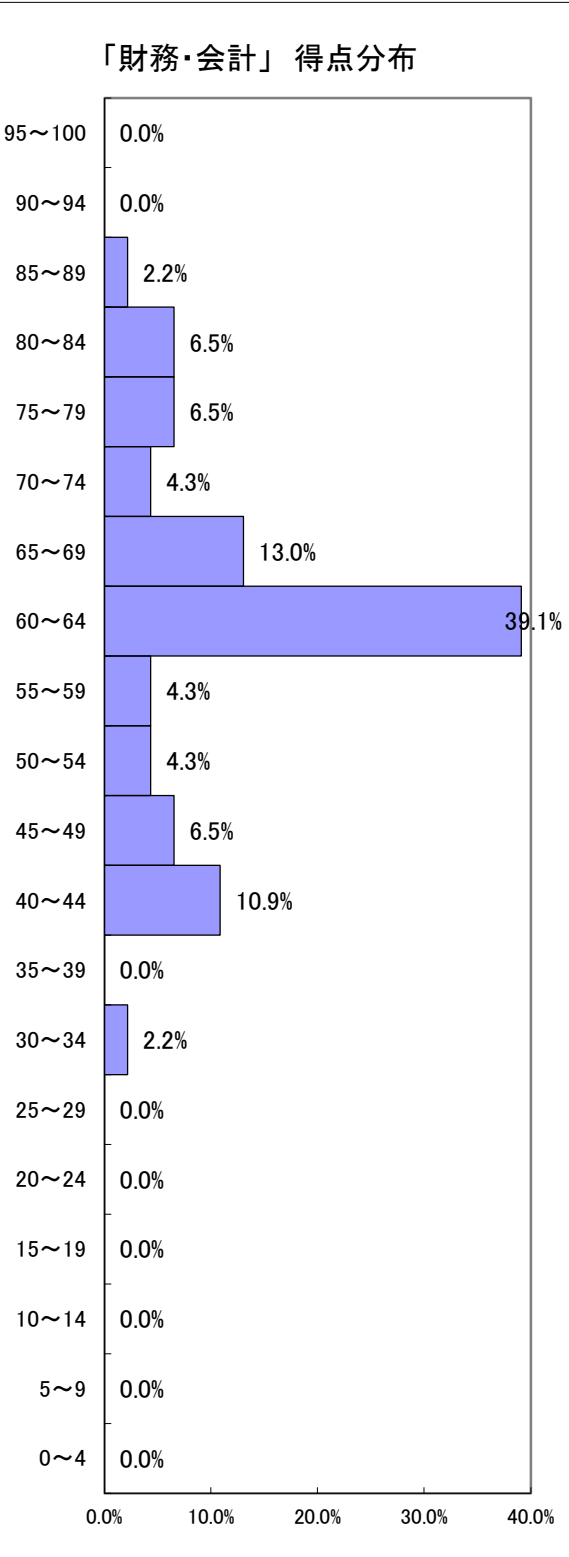


《コメント》
令和8年度の本試験は、過去25年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中22問が5肢択一であったが、今年度は25問中9問が5肢択一であり、大幅に減少した。さらに、前年度は正誤の組み合わせ問題が15問出題されたが、今年度は7問に減少した。難易度については、基本事項をもとに得点できる問題も多く、5肢択一問題や正誤問題数が減少したため、昨年に比べると難易度は下がり、今年度は標準レベルといえる。よって、今年の問題は、過去問題を軸に演習をしっかりと取り組まれた方にとっては、合格ラインの60点は確保できたものと思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学10問、ミクロ経済学15問であった。

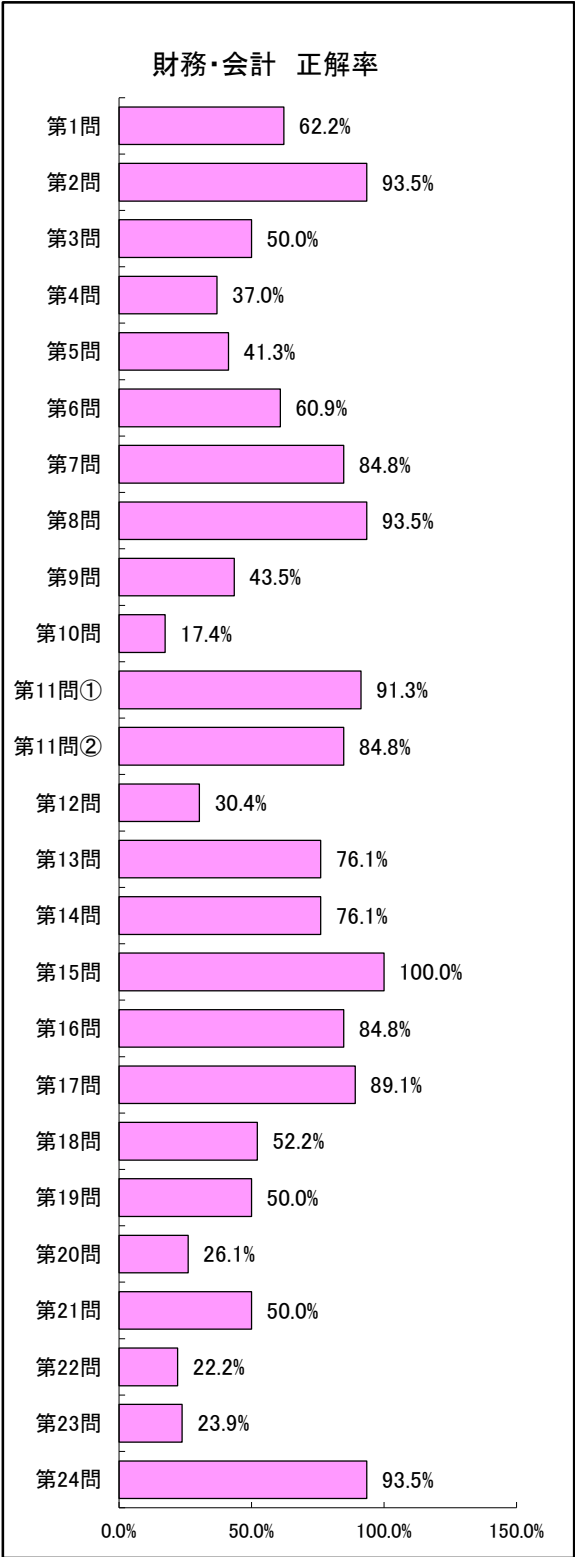
B 財務・会計

平均点：61.3点、標準偏差：12.1

■ 得点分布



■ 設問別正解率



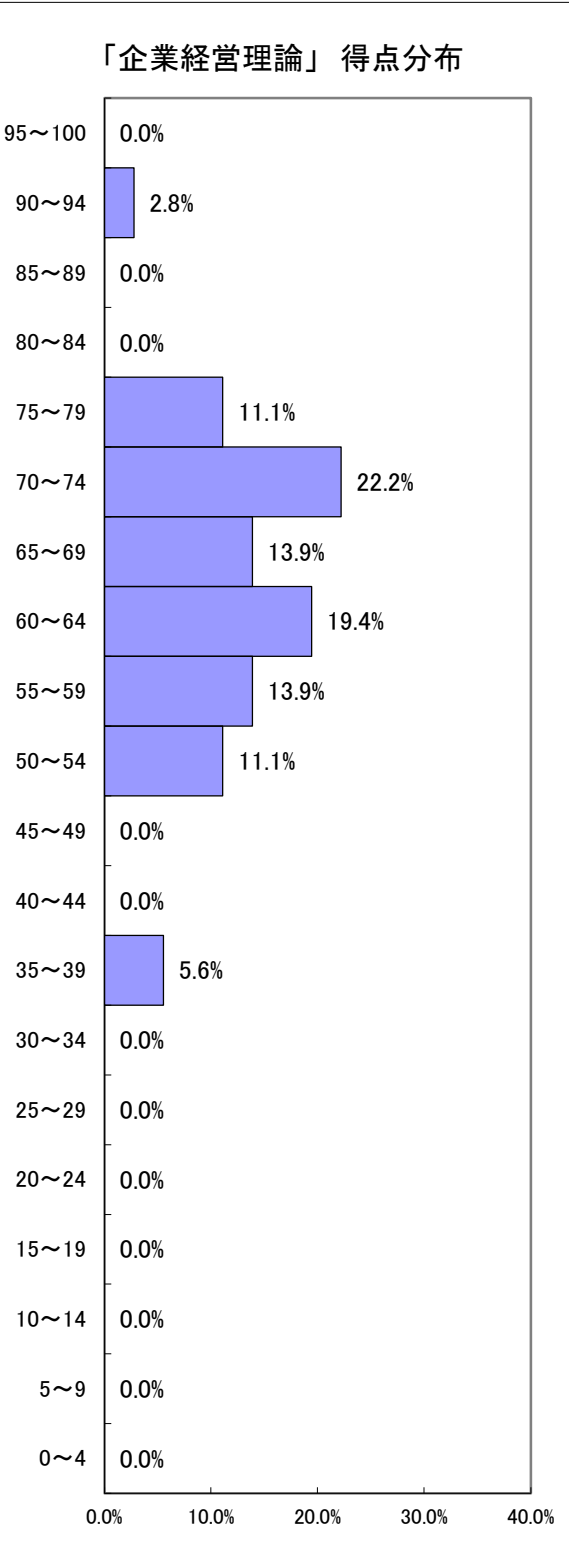
《コメント》

令和8年度の本試験は、前年度までの設問数と同じ25問であった。前年度はすべて4肢択一の問題であったが、今年度は5肢択一の問題が2問出題されている。

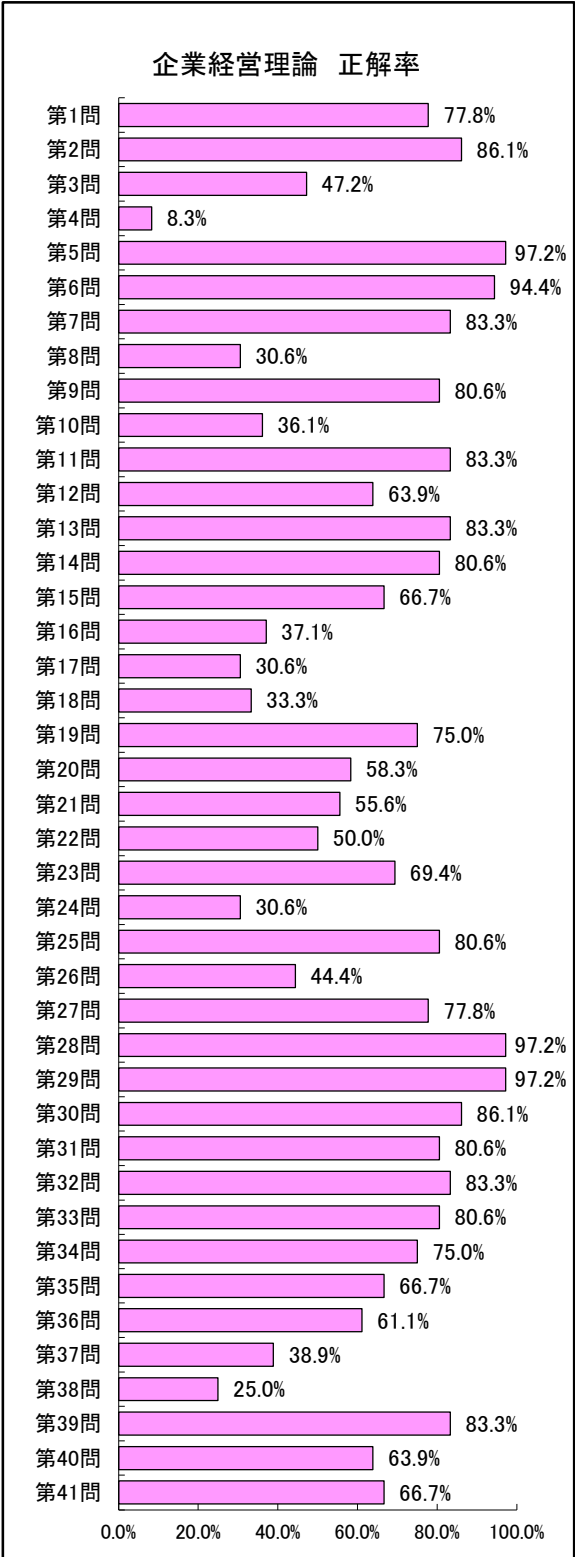
出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が13問（前年度13問）、財務分野（ファイナンス）が12問（前年度12問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、前年度に引き続き、今年度も会計分野の出題割合が高かった。出題論点を考慮すると、難易度が高い問題も出題されたが、正解が1つに絞れる問題も多く出題されており、全体的な難易度は標準レベルであったと思われる。したがって、得点すべき基本問題を確実に得点した上で、その他の問題で出来るだけ得点することができれば、合格ラインの60点以上を獲得することができたと思われる。

C 企業経営理論 平均点：64.1点、標準偏差：11.2

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

令和8年度の本試験は、量の面から見ると設問数は41設問と前年度と同数である。前年度と比べ、解答の判断が難しい問題もあったが、全体としては例年通りの難易度であったと思われる。

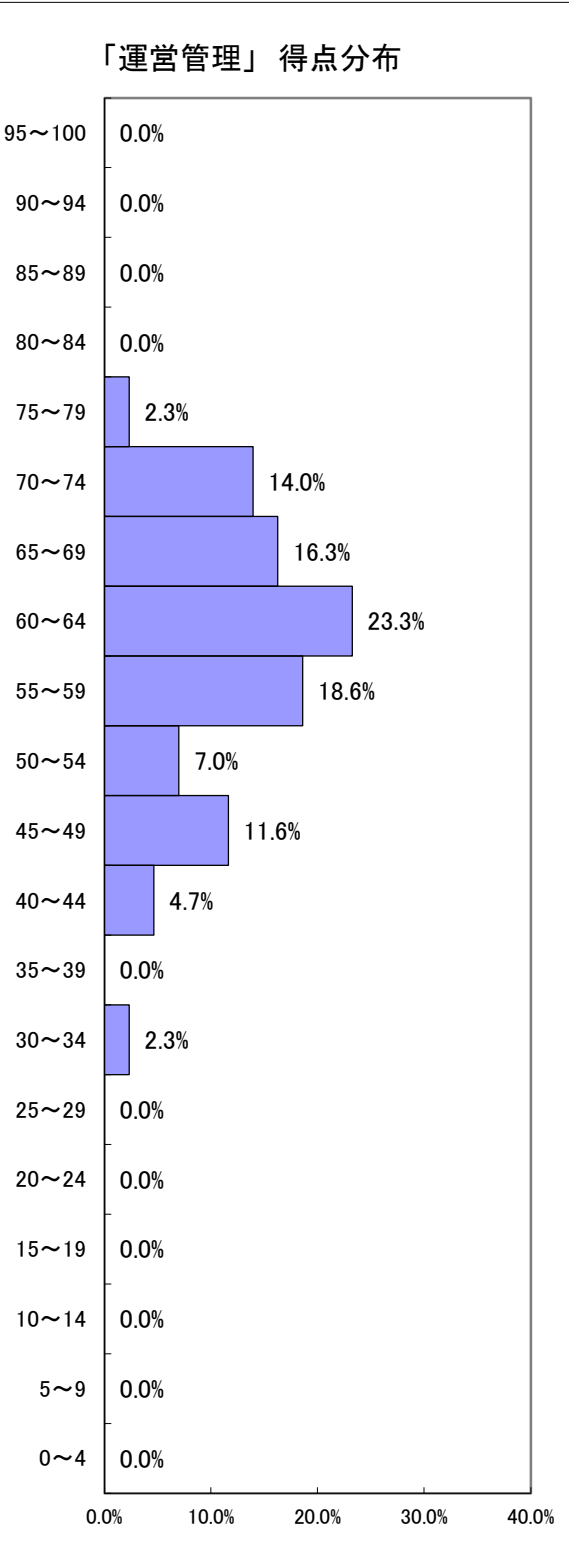
難易度を定める要因の一つとして、選択肢の数があるが、4肢択一と5肢択一の問題を比較すると後者の方が難易度は上がる。今年度の出題状況を見ると、4肢択一と5肢択一の設問の比率が9対32になっており、前年度の10対31よりも5肢択一の出題数が増加している。よって、難易度は下がっておらず例年通りの難易度であると思われる。

出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問（第1問～第13問）、組織論が14設問（第14問～第27問）、マーケティング論が14設問（第28問～第41問）であった。近年の出題傾向と比較しても、出題の分野別内訳はほとんど変化していない。

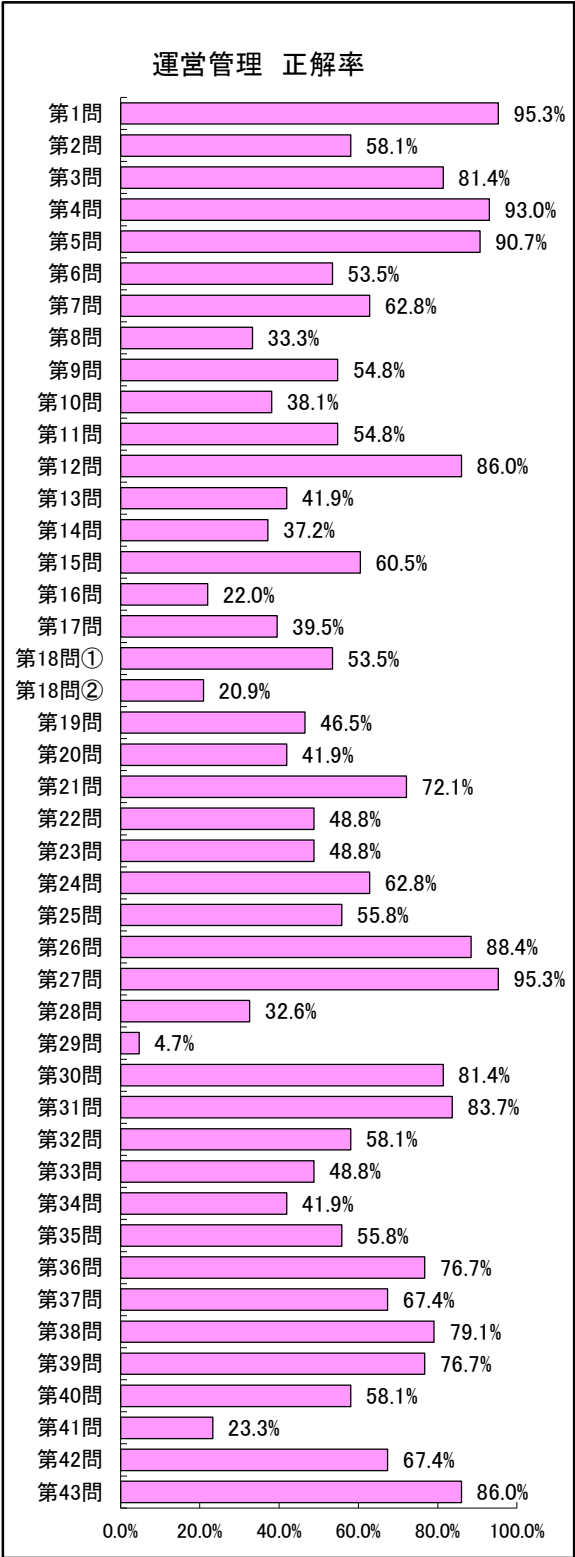
D 運営管理

平均点：59.4点、標準偏差：9.6

■ 得点分布



■ 設問別正解率

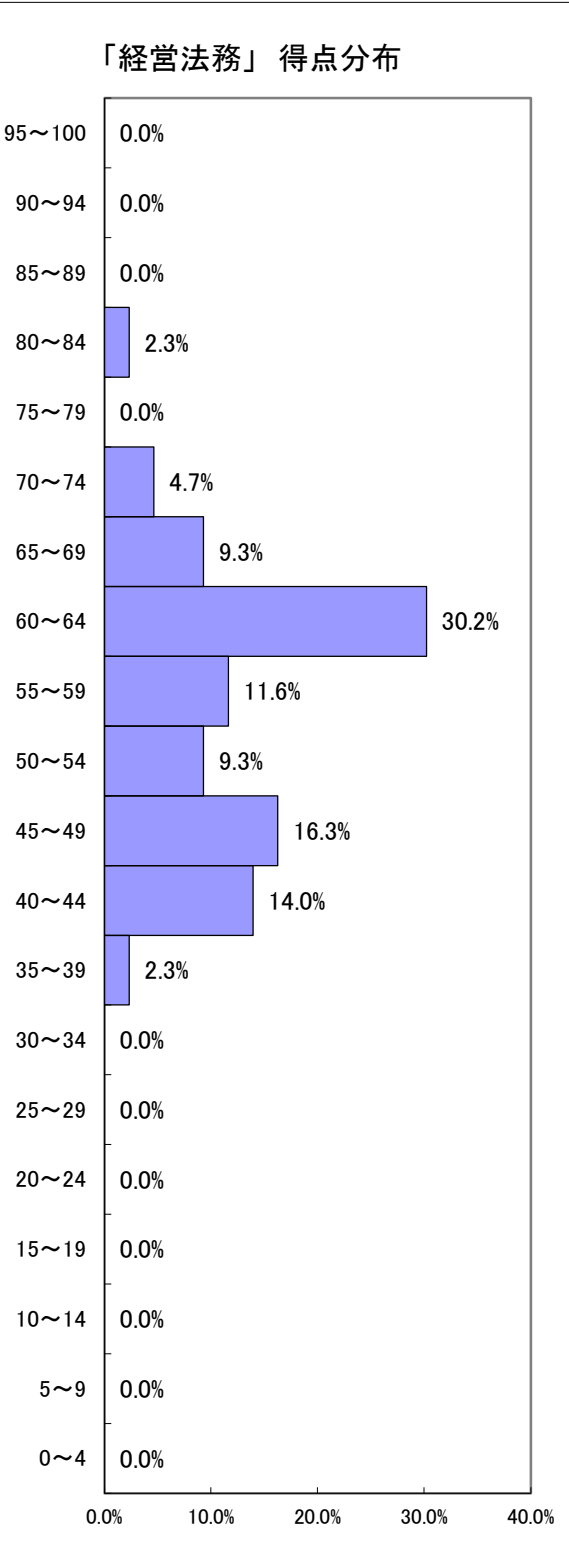


《コメント》
令和8年度の本試験は、運営管理44問（前年度44問）のうち、22問が生産管理（前年度22問）、22問が店舗・販売管理（前年度22問）であり、例年どおり偏りのない出題内容であった。また、5肢択一の問題が生産管理22問（前年度22問）、店舗・販売管理21問（前年度21問）であり、前年度と同じであった。また、計算関連の問題が7問（生産管理6問、店舗・販売管理1問）出題されており、その他にも、その場で内容を把握して解答を導かなければならない問題も比較的多かったため、解答を見直す時間が不足した方も多かったと思われる。
そのため、生産管理、店舗・販売管理いずれも過去に同様の出題がされた問題もあったとはいえ、全体としての難易度はやや高かったと思われる。したがって、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると思われる。今後も、過去問題の攻略は必須であると考え。

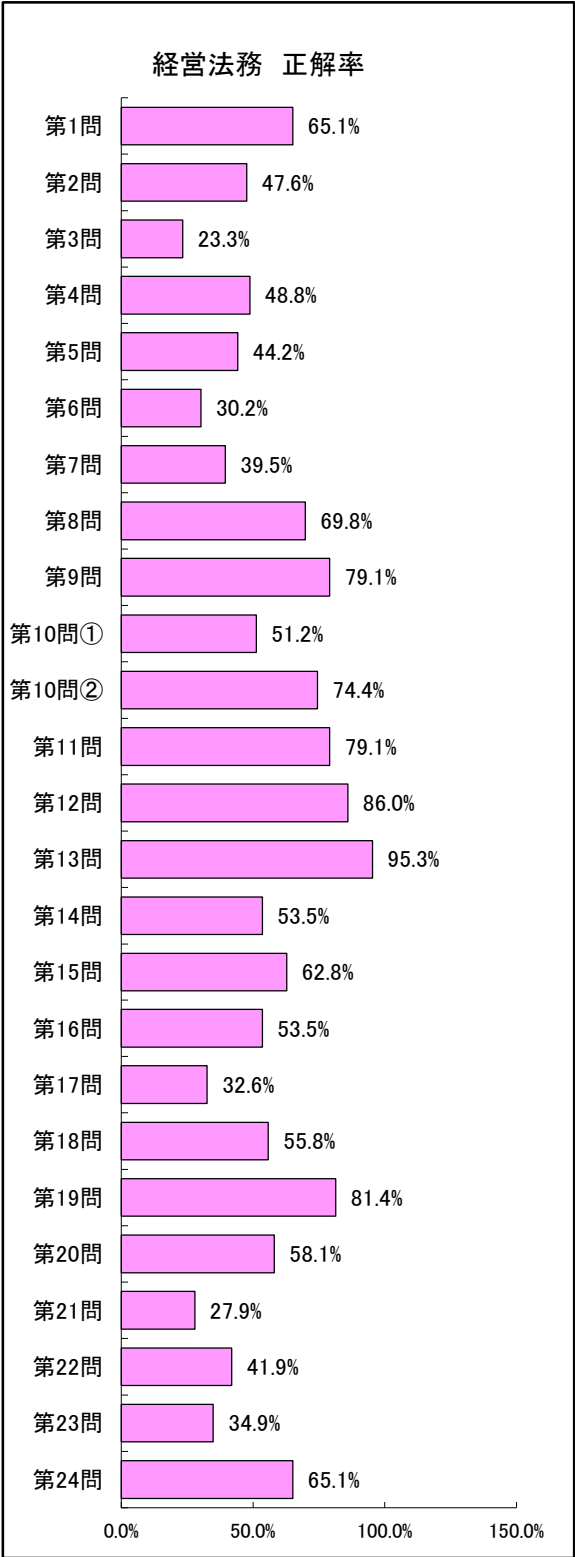
E 経営法務

平均点：56.0点、標準偏差：9.6

■ 得点分布



■ 設問別正解率

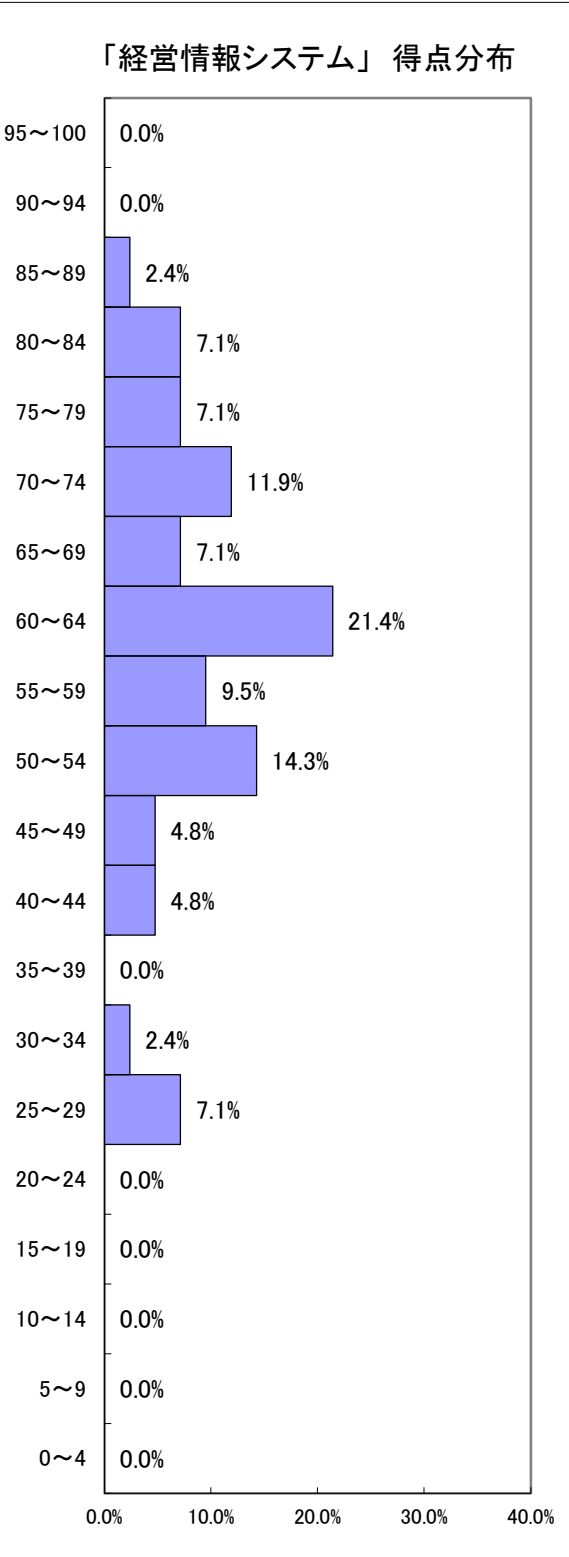


《コメント》
令和8年度の本試験は、問題数は24題（前年度24題）、設問数は25問（前年度25問）であり、前年度と同じ問題構成であった。ボリュームは例年並みといえる。
出題内容は、会社法関連が7問（前年度7問）、知的財産権関連が8問（前年度8問）、民法が7問（前年度6問）・その他が3問（前年度4問）であった。
出題内容の特徴としては、会社法関連の出題数は前年度と同じであり、民法の出題数が前年度より1問増加した。知的財産権関連の出題数は、前年度と同じであり、概ね例年通りとなった。出題の中心は、会社法関連と知的財産権関連であると言える。また、消費者契約法、英文契約書などの「その他」の出題は1問減少した。
全体的な難易度は、会社法関連、知的財産権関連の出題数に変化はなく、民法の出題数が若干増えたものの、標準レベルの難易度であったと思われる。したがって、過去問題にしっかりと取り組んでいた受験生であれば、合格基準点である60点を上回る得点を獲得することも期待できるとされる。

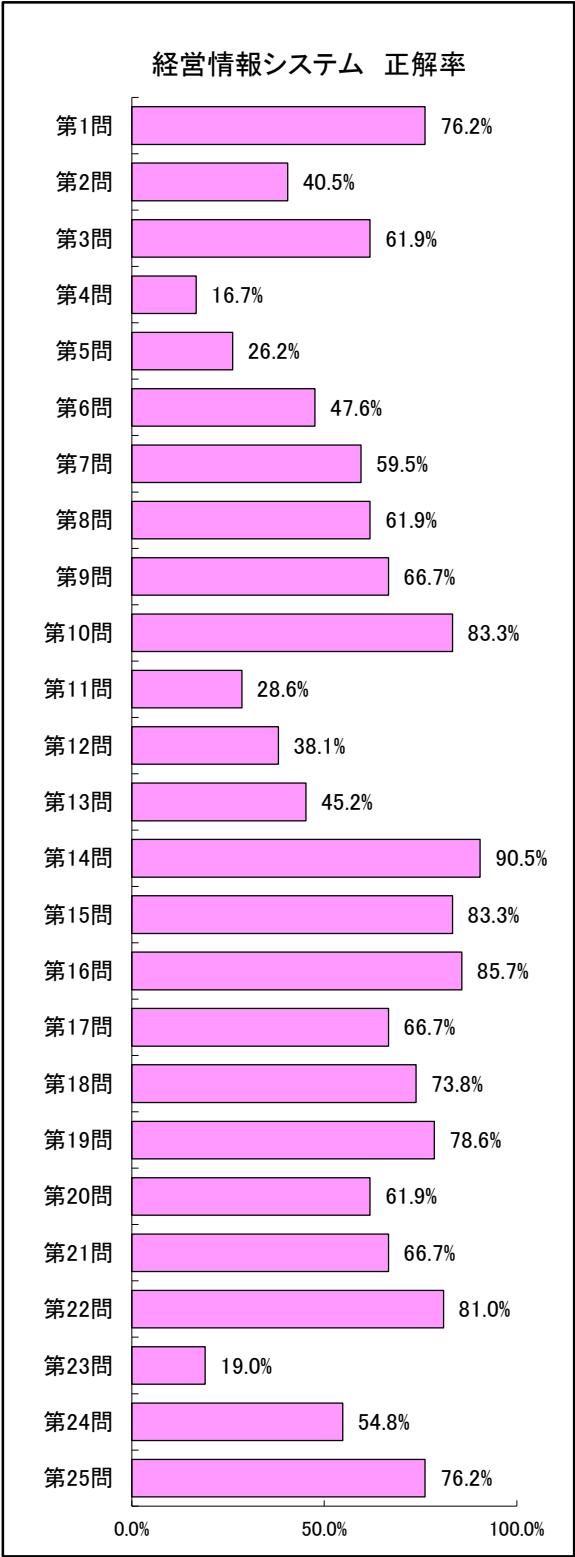
F 経営情報システム

平均点：59.6点、標準偏差：14.9

■ 得点分布



■ 設問別正解率



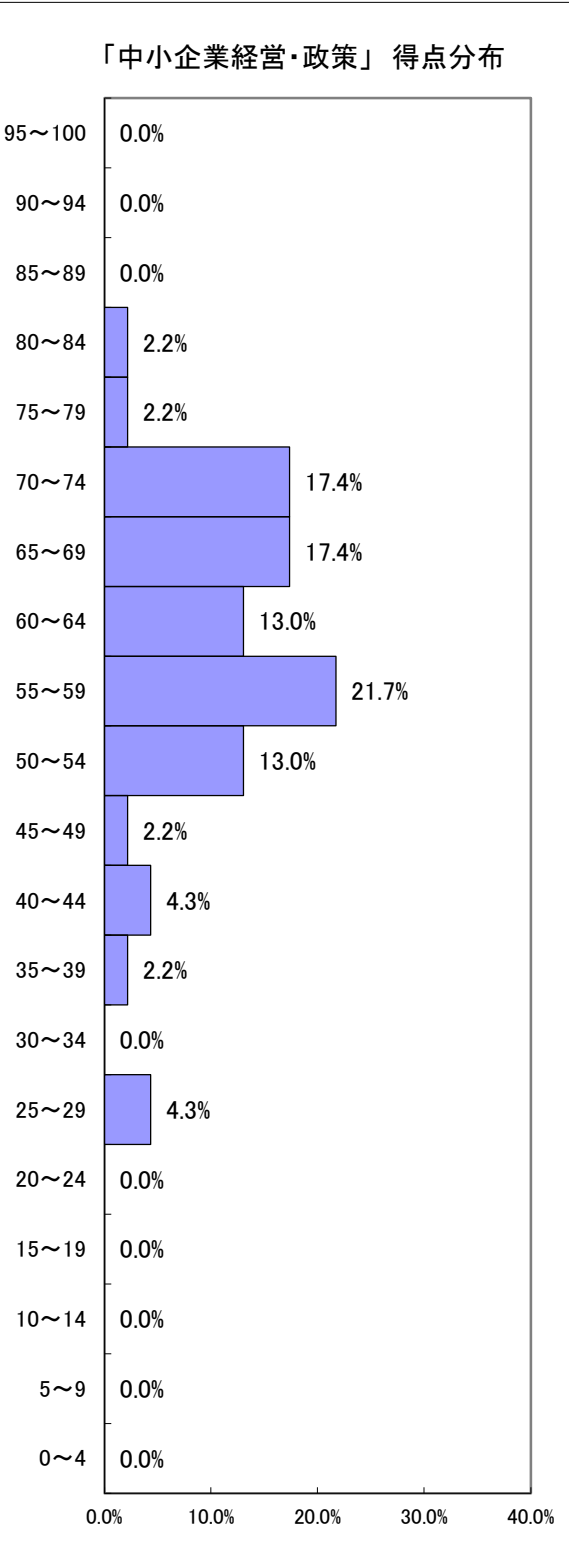
《コメント》
令和8年度の本試験は、近年の設問数と同じ25問であり、5肢択一が23問で前年度と同じであった。時事的な出題は例年通り多いが、確実な知識や消去法などを活用することで、標準的なレベルであったと思われる。
出題形式は、空欄補充問題4問（前年度5問）、計算問題3問（前年度3問）、正誤判断1問（前年度7問）であった。
出題の分野別内訳を見ると、概ね第1問～第10問が情報通信技術に関する基礎的知識、第11問～第25問が経営情報管理の出題である。特徴を列挙すると、次のとおりである。
①時事問題・最新の内容の出題がある（第25問の「AI事業者ガイドライン」など）。
②確実な知識で正解を絞り込むことができる問題が出題されている。
③過去問題の類似問題も出題されている（第7問の正規化、第8問のSQL、第19問のEVM、第24問の二値分類など）。
経営情報システムは、難易度のばらつきが大きい科目であるが、正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

G

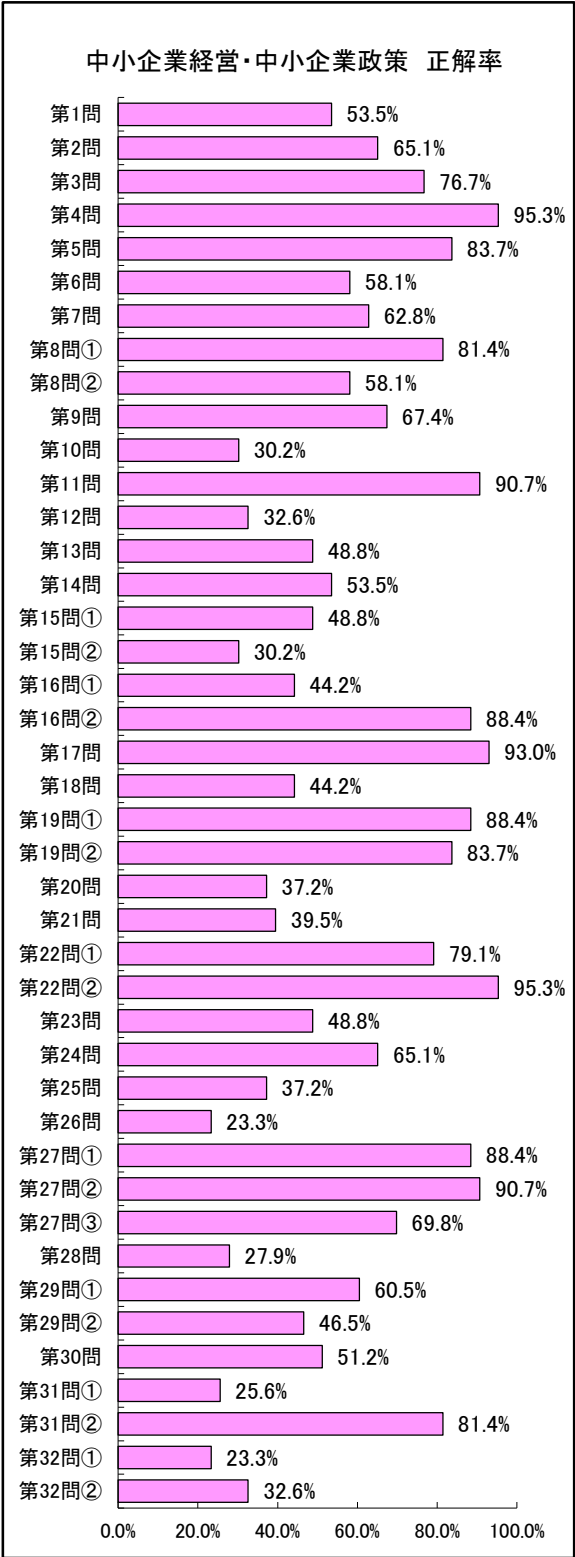
中小企業経営・中小企業政策

平均点：59.8点、標準偏差：11.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》
令和8年度の本試験は、42問の設問数であり、出題内容別で見ると、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、例年どおりであった。
難易度は、中小企業経営、中小企業政策ともやや難しかったため、全体的には前年度よりも難易度は高くなったものと考えられる。
中小企業経営は、21設問のうち、『2025年版中小企業白書』からの出題が17設問、『ものづくり白書2025年版』からの出題が1設問、『令和7年度経済財政白書』からの出題が2設問、その他1設問であった。中小企業経営は、白書の特徴をしっかり押さえられたかどうかで得点に大きく影響する。
中小企業政策は、21設問のうち、高い出題可能性が予想されていた「中小受託取引適正化法」と、定番の頻出論点等でしっかり得点を積み重ねることができたかどうかで得点が大きく変化する。これまでに出現されたテーマをいかにミスせずに得点できたかがポイントとなるだろう。